

炎症性腸疾患（潰瘍性大腸炎とクローン病）

講演会と交流会は終了しました

日時 令和元年6月1日（土） 13:30～16:00
場所 サンシップとやま 602・603号室
講師 済生会富山病院 内科部長 岩本 真也先生
講演「潰瘍性大腸炎とクローン病の最新医療について」



講演の概要

29年度潰瘍性大腸炎とクローン病の治療指針について説明があり、主な治療薬について作用機序と特徴、副作用について分かりやすく解説をしていただきました。



交流会

病気別に年齢も考慮し6グループ編成で実施しました。
日頃の悩みや先生に質問したいことなどが活発に話し合われ、交流会の時間設定を長くして欲しいとの要望もありました。



質疑応答

Q1 炎症性腸疾患の食事について教えて

A 潰瘍性大腸炎については、油や刺激物（香辛料・カフェイン等）は避ける。脂肪は1日30g以下と言われているが、脂肪自体が刺激するというより他の因子の攻撃性を高めると言われている。食べて良いもの、悪いものは人によって違うので自分にあわない物を把握して控える。アルコールはダメと言わないが、自分にとっての適量はよい。

Q2 根本的治療はないか

A 完治しない病気である。QOLは低下するが高血圧、糖尿病と同様コントロールをきちんとすれば平均寿命は健康者と比べて差がないといわれている。

Q3 結婚・妊娠について、治療薬の影響はないか？

A 男性の場合、サラソピリンは副作用があるといわれている。それ以外のバイオ製剤やステロイドは妊娠、出産に大きな影響はないと言われている。以前、女性ではイムランが禁忌といわれたが今は禁忌から外された。

Q4 大腸がんになる確率はどのくらいか？

A がんの合併率は潰瘍性大腸炎でない人と比べると若干高い。

Q5 2年前に関節リウマチになり、その後、潰瘍性大腸炎になった。関節痛はよくあることか？

A 関節痛合併の確率はかなり高い。

Q6 兄弟で発症している。遺伝はあるか？

A 家族に患者がいると発症率は高い。データでは親子というより叔父、甥とか兄弟の発症が多い。

Q7 小腸から大腸移行部が狭窄している。狭窄部分は広がるか？

A 講義中、ステント治療で拡張するという説明あり



アンケートから

・病気のことは他の人に話づらいがこのような機会があるといろいろな話が聞くことができている。

病気があっても普通に夢をかなえられるようになってほしい。

・新薬がでていると聞き安心した。

・セカンドオピニオンみたいで参加してよかった。